問 豪雨対策工事は毎年行うべき

答 雨水対策工事の予算確保に努める



新政とうかい
笹嶋（ささじま） 士郎（しろう） 議員

問 近年の線状降水帯による浸水被害は、千葉を襲った河川の氾濫や浸水など甚大な被害であった。村の把握した浸水箇所の解消に向け、計画はあるのか。

答 令和6年度に改定した「雨水管理総合計画」があり、この計画に沿って、市街地の浸水箇所を中心に事業を推進していく。今後は、さらなる自然災害の激甚化に備え、新たに対策に必要性が生じた場合は、随時計画に反映していく。

問 千葉豪雨や福井豪雨など私たちの予想をはるかに超えた災害になっている。住民の生命・財産を守るためには、スピード感をもって事業を進めるべき。新たな対策が生じた場合と悠長なことではなく、毎年予算を付け、着実に浸水対策工事を進めるべき。

答 雨水対策事業については、多額の事業費が必要となる。しかし、近年の集中豪雨は激しさを増しており、雨水対策事業の重要性は、高まっていると認識している。毎年度、必要な予算を計上し、事業を進めていく。



冠水する東海高校先のトンネルと
その先の民家と資材倉庫

問 短期間に５件もの火災。住民を恐怖に

答 施設の枢要な装置での発生はより深刻



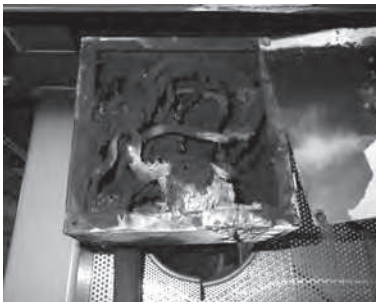
大名（おおな） 美恵子（みえこ） 議員

問 度重なっての火災発生だが、原科研のどういう点が深刻と受け止めたか。

答 日常的な設備点検や安全管理に関する教育を実施しているにもかかわらず、火災の発生を未然に防止できなかったことは、点検や教育の形骸化を疑うもので、安全管理上の組織的な問題があったものと考える。

問 原子力事業所で火災発生が多くなっている。事業開始以来、未点検の設備の総点検を求めることと、今後取りまとめられる再発防止対策について、適正性確認が必要ではないか。

答 原科研においては、村からの厳重注意を受けて全ての施設で火災に係る緊急点検を実施したと聞いている。今後取りまとめられる再発防止対策では、点検項目の見直し等、より強固な対策が講じられると認識している。また、原科研の分析により抽出された４点の組織的課題については、村として再発防止の取り組みが実効性あるものとなっているか、継続的に確認していく。



タンデム加速器建屋内での火災跡
（提供：JAEA原子力科学研究所）